

「昭中34年卒業生 & 県尼37年卒業生」 関東地区在住同窓生合同の会

「347の会」大田黒公園（2018・秋）

東京都江戸川区 中埜和男

2018年秋の「347の会」を荻窪の大田黒公園で行いました。「347の会」は「昭中34年卒業生」と「県尼37年卒業生」で関東地区に住む同窓生の合同の会です。幹事はいつもの坂元祥郎君です。

この日は、絶好の紅葉狩り日和という天気予報に反して、やや風が冷たい秋の一日でしたが、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

大田黒公園ツアーには男性が坂元祥郎・秋山俊雄・山崎光喜・中埜和男、女性が宮田美智子さん(旧姓太田)・野中悦子さん(旧姓磯部)の昭中・県尼組と関 弘子さん(旧姓水野、昭中・市尼)の7名が参加し、のちほど日本橋の「麴蔵八重洲一丁目店」で行われた懇親会には尼崎から山添佳世子さん(旧姓竹田・昭中・県尼)が特別参加してくれました。山添さんは娘さんが千葉に住んでいるので、この会にあわせて出かけてきてくれたという事でした。

常連の中挟義夫君(小田北中・県尼)は「栄太郎の会」に参加のために神戸へ、近田あき子さん(旧姓中島さん・小田南中・県尼)は丹沢の植物の会とダブったので参加できませんでした。

さて、大田黒公園は東京の隠れた紅葉の名所という事で早速出かけてみました。荻窪駅で待ち合わせをして、駅前から歩いて約10分、閑静な住宅街の中にひとときわ緑の豊かな落ち着いた公園が見えてきました。

この公園は、音楽評論家大田黒元雄氏の「自邸の30%を公園にして欲しい」という遺志に基づいて、遺族から杉並区に寄贈された土地に、周囲の敷地を合わせて区が整備して昭和56年に開園したそうです。

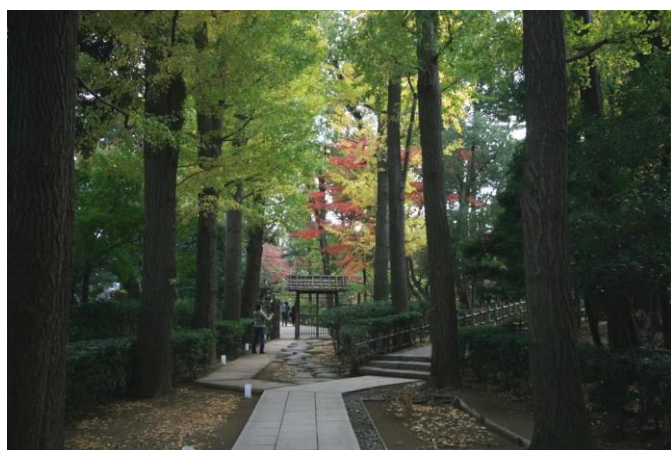


大田黒元雄さんというと、私たちが子供の頃、NHKの「話の泉」で音楽についての博識ぶりが記憶にあります。こんな立派な邸宅に住んでおられたのだなあと感心しました。元雄さんのお父さんは、日本の水力発電の先駆者として芝浦製作所(現東芝)の経営を再建して財をなした大田黒重五郎さんで、江戸時代には徳川幕府の御家人だったそうです。

大田黒元雄さんは裕福な家庭に育って、日本ではじめてドビュッシーやストラビンスキーを紹介したり、野球や相撲や推理小説など幅広い趣味を持ち、食道楽でもあったそうです。また、明治45年に渡英し、ロンドン大学で経済学を修めてその後、企業の監査役などで産業界に貢献されたそうです。

庭は見事な日本庭園になっていて、残念ながら今年は台風24号の塩害で鮮やかな紅葉を見ることはできな

ったものの、落ち着いた雰囲気を楽しむことが出来ました。



公園の中にレンガ色の記念館が建っています。この建物は大田黒さんの仕事場で昭和8年に建築された当時としては珍しい西洋建築です。



室内には愛用のスタンウェイ社製のピアノや蓄音機が展示されています。



大田黒公園の散策を終え、日本橋の「麴蔵八重洲一丁目店」に移動しました。

ここでは小学生・中学生の頃の話に花が咲きましたが、関さんから「校区の関係があったと思うけど、県尼に行けなかったのが残念！」という話をたっぷり聞かされました。「今の市尼は県尼よりはるかに頑張っているし」と、皆でなだめたりしました。また、先日亡くなった加司淳君を偲んで思い出話などもしました。

懇談も一段落したところで記念写真を撮り、幹事の坂元君に感謝をしつつ、来年の会を楽しみに家路につきました。



(中埜 記)